

Title	仕事のやりがいと組織特性
Sub Title	
Author	堀内英男(Horiuchi, Hideo) 高木晴夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第646号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0646">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0646</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	堀内英男	主査	高木晴夫
	(株式会社伊勢丹)	副査	石田英夫
所属ゼミナール	高木晴夫 研		小野桂之介

## 仕事のやりがいと組織特性

経営を取り巻く外部環境の変化によって、企業の戦略が大きく変わろうとしているにもかかわらず、それを阻害するような組織上の問題点が明らかになってきた。すなわち、今日の経営課題として、従業員に積極的なやる気をおこさせ組織を活性化するために、経営者は何をどうすればよいのか、ということが真剣に問われている時代なのだ、ということである。そこで、本研究ではどのような職務を行うことが従業員のやる気に結び付いていくのか、という方向から探索的研究を行った。つまり、①地味な職場で職務を遂行していながら、消極的にならず、むしろ積極的になる従業員が存在していること自体を指摘する、②彼らが意欲的になっている要因を探る、の2点を目的とした。企業組織の一例としてP百貨店の従業員を対象として質問紙調査を行った結果、従来の事実に加え上記の新たな2点の発見を加えることができた。さらに次の4つの新たな事実も発見した。①職務における「職務の主役イメージ性」軸と「職務の売上貢献性」軸の2軸の発見、及び2軸のずれによって文献調査では存在しないだろうと考えていた職務が存在していることの発見 ②「職務の主役イメージ性」が高いと「仕事の適性感と達成感」と「仕事に対するチャレンジ意欲」が高くなるという関係の発見 ③それらに該当する職務を発見し具体的に摘出したこと ④それらの職務が存在している具体的な背景要因(組織特性と社内風土)を摘出し、一般化を試みたこと、である。これらの事実から、組織特性と社内風土が「職務の主役イメージ性」を高めるようにコントロールされていれば、従業員は、常に自己の職務を主観的に「主役的だ」と思うことができるので、仕事にやりがいを感じ、積極的態度を示すようになることが明らかとなった。従って、従業員をマネジメントする立場にある上司は、①対処療法 ②治療療法 ③予防療法の3本立てで、組織特性を活用することによって、従業員にやりがいを持たせることが可能となるであろう。